

クリタマバチの天敵であるチュウゴクオナガコバチの利用

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部

担当者：戸田 世嗣

研究のねらい

クリタマバチに対して効果の高い導入天敵、チュウゴクオナガコバチの利用法を明らかにする。

研究の成果

- 1 チュウゴクオナガコバチは球磨郡の一部をのぞき、県下全域に分布しており、新たに放飼する必要はない。
- 2 チュウゴクオナガコバチはクリタマバチのゴール(虫こぶ)の中で越冬し、3月下旬~4月中旬に羽化する。
- 3 ゴールがついた剪定枝を焼却するとチュウゴクオナガコバチの増殖が抑えられる。
- 4 土着の寄生蜂(トゲクリタマヒメナガコバチやトゲアシカタビロコバチ)はチュウゴクオナガコバチに寄生し、本種の増殖を妨げる。
- 5 土着の寄生蜂もクリタマバチのゴールの中で越冬する。しかし、羽化時期はチュウゴクオナガコバチより遅く、4月下旬~6月上旬である。
- 6 ゴールのついた剪定枝は、チュウゴクオナガコバチの羽化が終了する4月中旬までクリ園内に残し、本種を保護する。羽化が終了した剪定枝は、4月下旬までに焼却処分し、土着寄生蜂の発生を少なくする。

普及上の留意点

チュウゴクオナガコバチは1年に1回しか発生しないため増殖が遅く、園に定着してからクリタマバチに対して効果が認められるまでに数年~10年かかる。

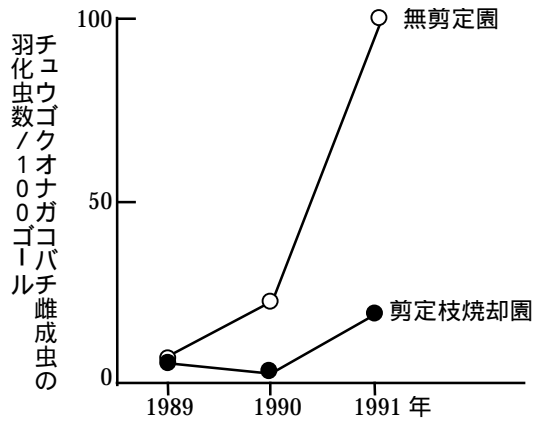


図1 剪定枝の処理方法がチュウゴクオナガコバチの増殖に与える影響

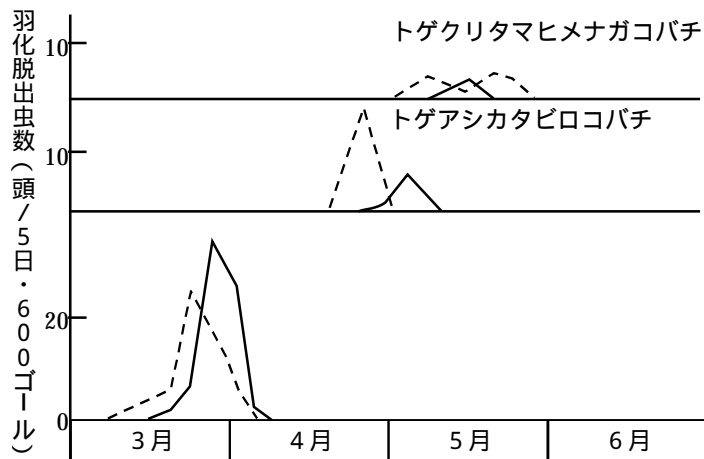


図2 大津町ほ場におけるクリタマバチ寄生蜂の羽化消長(実線雌、点線雄)

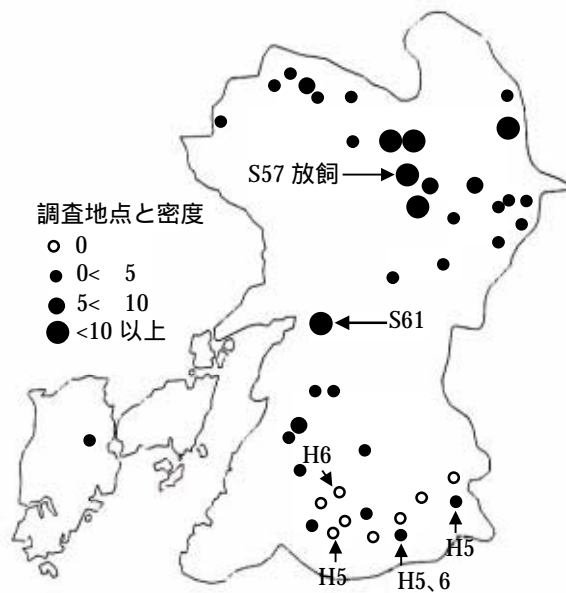


図3 調査地点とチュウゴクオナガコバチの密度(100ゴール当たり羽化雌成虫数)

注: 表中の年号は放飼実施年